



すみたの秋

住田町に関わりをもってくださいるみなさまへ、
住田町の「今」をお届けします。

✓発行 住田町 〒029-2396 岩手県気仙郡住田町世田米字川向 88 番地 1

✓制作 一般社団法人 SUMICA 〒029-2311 岩手県気仙郡住田町世田米字世田米駅 13

KUBBと
かきます。



オスカー杯 2018

09.08

今年で6回目を迎えた【第6回オスカー杯in住田】が9月8日(土)に住田町の社会体育館で開催されました。オスカー杯は、フットサル界のカリスマである眞境名オスカー氏の「東日本大震災によりボールを蹴る場所や遊ぶ場所がなくなった被災地の方々や子ども達に笑顔を取り戻したい」という想いから、2013年より毎年開催されているフットサル大会です。住田町をはじめ、大船渡市、陸前高田市、宮古市、釜石市、大槌町、滝沢市、遠くは宮城県気仙沼市からの参加があり、総勢120名を超える選手が住田町に集結しました。高校生以上のメンバーで編成されたチーム対抗戦の他、90分程行われた子ども達対象のクリニックは、少しでもボールが好きになるようにとオスカー氏自らが講師を務め、たくさんの笑顔を生み出しました。



クラブ・ジャパン・オープン 2018 in 岩手住田町

09.30

少し肌寒くなった初秋、【クラブ・ジャパン・オープン 2018 in 岩手住田町】が住田町生涯スポーツセンターにて開催されました。

大会当日は生憎の雨天。クラブは通常芝生の上で行うスポーツですが、今大会は急遽住田町生涯スポーツセンターのアリーナにて実施されました。全国からたくさんの参加者が集い、約60チームが出場。会場は大変な熱気に包まれました。また、会場では商工会や地元商店が屋台を出し、地場産品が並べられ、大いに賑わいました。

*クラブは、丸太を投げ当て楽しむスウェーデン生まれのスポーツ。森林・林業日本一を目指す住田町では、木を使ったクラブを通じて、まちづくりやまちおこしへ繋げる動きも盛んに行われています。



色とりどりの出陣が並びました

五葉山神社四年祭

09.23

上有住地区に鎮座する五葉山神社の四年祭が、秋晴れの空の下行われました。お祭りは、五穀豊穰に感謝し、家内安全などを祈願しようと4年に1度執り行われます。八日町神輿渡御行列には、各神輿のほか、坂本太神楽、五葉念仏剣舞、両向通り踊、恵山花取り踊、八日町通り踊の各地区が続き、各地区カラフルな衣装に身を包み、幅広い世代が列をつくりながら華麗な舞を披露しました。

各地区の組には地域住民のほか、上有住出身者や世田米在住者、学生ボランティアも参加し、神輿渡御行列には総勢約700人が集いました。沿道にはたくさんの観客も詰めかけ、4年に1度の祭りに盛り上がりを見せていました。



「たたら製鉄PJ」 2018年度グッドデザイン賞受賞

住田町を舞台に2017年8月より開始された、「たたら製鉄」による住田町のまちづくり【すみた・てつくり(鉄づくり)プロジェクト】が、2018年度グッドデザイン賞を受賞しました。本プロジェクトは、街の景観にあわせた新たな案内サイン(案内板)を、住田町の素材と技術を活用し制作することで、住田町、一般社団法人邑サポート、すみた・てつくり(鉄づくり)プロジェクト、せたまい町歩きガイド、ナグモデザイン事務所(東京都)の共同チームが行いました。盤面の木材はもとより支柱の鉄についても制作チームで製鉄を行い、オール住田町産のサインを実現しました。これらのプロセスで地元住民やボランティアガイドとワークショップを行いながら意見を集約していったことも評価されました。



みえ熊野古道商工会青年部視察研修 in 住田町

9/1-2 三重県北牟婁郡紀北町から車と飛行機を乗り継ぎ片道約970km。6時間以上の長時間移動を経て、みえ熊野古道商工会青年部(以下、同青年部)17名の方々が、9月1日から2日にかけて、住田町を中心とした気仙管内の視察に訪れました。参加者の約9割は紀北町生まれ紀北町育ちで自らが事業主の方々、残りの約1割は縁あって紀北町に関わることになったI・Jターンの方々でした。紀北町は、世界遺産である紀伊産地の霊場と参詣道(熊野古道)を有し、人口約16,000人、町面積の約9割が森林。主な産業は、水産業と林業という町で、当町にも通じる点が多々ある場所です。必ず起こると言われ



ている南海トラフが発生したとき、自分たち事業主はどう対処し、乗り越えればいいのか。東日本大震災後ずっとそのことを考え、学びたかったという同青年部の方々。住田町、大船渡市、陸前高田市の、業種は違えど共通の熱い想いを持つ経営者6名の元を訪れ、震災当時から現在までの話を伺い意見交換を行いました。夜は、気仙管内の商工会青年部や青年会議所より約20名が住田町に集結し、それぞれの事業や自らの地域について話しながら親睦を深めていました。実際に被災地に来て、現場を見て、そこで生きる人の話を聞く。シンプルながら一番大事なことを今回の視察研修を通して感じた紀北町の方々、再会と今後も住田町に関わり続けることを約束し、帰路につきました。



すみたミートアップ@愛知

10/20 2011年3月11日の東日本大震災以降物理的な支援からはじまり、ネットワーク構築やコミュニティ形成など現在に至るまで継続的な支援活動を続けて下さっている愛知県の方々。当町にも様々な形で、本当にたくさんの方々に関わり続けて来ています。そんな愛知県とその近隣の方々を対象に、現在の住田町の様子のご報告のため開催された今回の「すみたミートアップin愛知」。当日は、愛知県安城市、東海市、豊橋市、名古屋市、設楽町、三重県紀北町から約30名が会場を訪れてくれました。震災当時、いち早くボランティア基地作りに着手し、その後も足繁く住田町を訪れて下さっている団体や当



町で社員研修を行ったことがある企業、青年会議所の事業ですみた民泊協会を活用し滞在して下さった青年会議所OBの方々など懐かしい面々が揃う一方、その方々の繋がり、初めて当町のイベントに足を運んで下さった行政関係者や経営者の方々など、今回のイベントを介して新たな繋がりがたくさん生まれました。会終了時にとったアンケートではほぼ全員の方が「また住田町を訪れたい」「住田町の活動に興味がある」と回答して下さい「今後もこのような会を開催してほしい」「以前お世話になった民宿に家族を連れて行きたいので、そのようなイベントを行ってほしい」「もっと住田町のファンが増えることを願っている」といった貴重なご意見を数多く頂き私たちにとっても大変盛りだくさんな会となりました。



SUMICulture
vol.6

SUMICulture vol.6 開催!

11/11 秋もだいぶぐっと深まった11月初旬、まちや世田米駅にて第6回SUMICultureが開催されました。一般社団法人SUMICA主催の「SUMICulture」では、これまで様々な分野で活躍する方を講師に招き、5回の連続講演会を行ってきました。今回は、講師に脚本家の岡田恵和氏が招かれ、「日常に見る幸せ」をテーマに講演会が行われました。この日は町内外から約60名が来場。遠くは秋田からも住田町へ足を運ぶ方がいらっしゃいました。

岡田氏は45分間の講演の中で、幼少期のエピソードも混じえながら、自身の作品で「普通の人の幸せ」を描くルーツにも言及。「知らない人生を知るために、ドラマがある。」「自分もこれでいいんだと思いながら、楽しんでもらえる作品を作っていきたい。」と話しました。

講演後の一問一答コーナーでは、事前に収集された参加者からのたくさんの質問のほか、その場で参加者から出た問いにも岡田氏が直接答える場面もあり、会場は終始熱気に包まれました。岡田氏は、何気ないあいさつのシーンを省かず入れることで心境の変化などを表現するこだわりを明かしたほか、「幸せとは、変化がないこと。きょうと変わらないあしたがあることが幸せ。」と、日常の大切さにも触れていました。

一人一人にじっくりと語りかけるような口調で、脚本にかける思いなどを伝えた岡田氏。来場者は終始熱心な表情で耳を傾けていました。



松日橋架け替えプロジェクト

10/26 クラウドファンディング達成!

目標金額：30万円

11/3 NEW橋板の橋架け作業の様子

